

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2006～2008

課題番号：18720167

研究課題名 (和文) 首都京都から見た中世後期社会の展開
—発展段階論の批判と中世後期社会像の再構築研究課題名 (英文)
A study on the capital and society in the 14～16th century

研究代表者

早島 大祐 (HAYASHIMA DAISUKE)

京都大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号 10378490

研究成果の概要：

従来、発展段階的に把握されてきた中世後期社会の展開に対して、早島 2006 を中心とする論考では、この時期に首都としての姿を明瞭にした京都の政治的・経済的求心力に注目し、室町幕府体制が確立した 14c 末～15c 初頭の飛躍的發展と、幕府が解体していく 15c 末～16c 初頭以降の低迷という流れで理解すべきと主張した。中世後期社会の特徴は、かつて京—公家の都と鎌倉—武家の都に分かれていた列島社会の核が京都に一元化され、政治・経済の上で大きな求心力を有した点にあった点にあり、社会の展開も室町幕府の消長にリンクしたものであった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 18 年度	1,300,000	0	1,300,000
平成 19 年度	1,000,000	0	1,000,000
平成 20 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	210,000	3,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：中世史

1. 研究開始当初の背景

これまで中世社会の展開は、時代を追うごとに発展するという発展段階的理解の下で把握されてきたといえ、とりわけこの傾向は中世後期の研究において顕著であった。しかし、京都を核に再編された中世後期社会の展開は、実際には室町幕府の成立や解体といった政治史とも密接に連動したものであり、具体的には幕府体制が確立した 14c 末～15c 初

頭の飛躍的發展と、幕府が解体していく 15c 末～16c 初頭以降の低迷という流れで理解できる。従来の研究は発展段階論の理論に、史料の読みを追随させる傾向にあったが、政治史の展開や社会経済史の実態を視野にいたした上で、発展段階論によりかからない中世後期社会像の再構築を目指す必要がある。

2. 研究の目的

注目すべきはこの時期に首都としての姿を明瞭にした京都である。武家政権が京都に本拠を置いたことにより、鎌倉時代には、公家の都＝京都と、武家の都＝鎌倉と分化していた首都機能が一元化され、中世後期になって列島社会に核ができた。これは中世前期とは一線を画する中世後期社会の特色といえ、首都京都を中心に再編された社会の展開を明らかにすることで、従来、単純に成長・発展する社会と考えられてきた同時期の社会像の再構築を目的にする。

3. 研究の方法

政治史と経済史の史料に基づく総合的で正確な理解から、中世後期社会像を再構築する。

経済史的には14～16世紀にかけての商人データベースを作成する。日本中世史では商業関係史料が断片的にしか残存しておらず、そのために部分的史料の読みから、性急に全体が論じられる傾向にあった。そのために、研究の基礎作業として個々の史料を一度、収集・整理して個々の商業の展開が全体でどのような位置にあるかを明確にする必要がある。その上で、中世後期における商人の動向が、常に右上がり発展するという超歴史的な理解ではなく、当時の政治・経済構造の変化の影響も受けた、起伏に富んだものであったことを明らかにした。

政治史的には、室町幕府は、公武統一政権として展開し、朝廷の主催していた国家的公事の用途を出資する点に特徴があり、それを軸に地方から京へ財貨が移動した。このようなあり方が形成される過程について、これまで研究はなく、国家的公事の遂行状況と、財源のあり方を解明し、そこから公武統一政権の成立と崩壊を明らかにする。

4. 研究成果

以上の分析を経て、中世後期社会の展開は、従来のような右肩上がりの理解ではなく、室町幕府体制が確立した14c末～15c初頭の飛躍的発展と、幕府が解体していく15c末～16c

初頭以降の低迷という流れであったことを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

早島大祐「ものはもどるのか」中世後期研究会編『室町・戦国史研究を読みなおす』思文閣出版、269～294頁、2007年、査読無

早島大祐「応仁の乱後の京都市場と摂津国商人」『立命館文学』605号、72～85頁、2008年、査読有

早島大祐「乾家と法華堂荘園」勝山清次編『南都寺院文書の世界』思文閣出版、148～188頁、2007年、査読無

早島大祐「応仁の乱への道」『中世都市研究』14号、164～193頁、2008年、査読無

早島大祐「京都商人の信仰と経営」『親鸞門流の世界』法蔵館、313～330頁、2008年、査読無

[学会発表] (計1件)

早島大祐「応仁の乱への道」中世都市研究会、2007年9月2日、東京大学

[図書] (計1件)

早島大祐『首都の経済と室町幕府』吉川弘文館、2006年、361頁

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)
特になし。

○取得状況 (計0件)
特になし。

[その他]

なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

早島大祐 (HAYASHIMA Daisuke)

京都大学・大学院文学研究科・助教

10378490

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし